

冬休みは全国各地でジュニア選手の強化を目的とした事業がてんかひされています。その中でも、U15のヘッドコーチ鷺野先生が主催する「藤浪トレーニングマッチ」が全国でも注目されています。北海道からも北星女子中が参加し、指導者も個人的に参加している方が多いと聞いています。

その中の一人、北長沼中の柴田先生が参加し、レポートを送ってくれましたので紹介します。

「2008 藤浪トレーニングマッチ」

北長沼中学校
柴田 誠尚

今年も鷺野先生が主催する藤浪トレーニングマッチへ参加してきました。自地区では1年生大会が開催されているにも関わらず勉強しに行かせてくれた仲間たちに感謝しております。

さて今回は北海道から参加するにあたり北星女子のツアーに同行させていただきました。白川部先生には日頃からいろいろな大会でお会いする度に声をかけていただいていたので、思い切って同行させてくださいとお願いし快諾していただきました。

できる限りチームに迷惑をかけないように心がけ行動しましたが、北星の選手たちの時間厳守、あいさつ、移動時のてきぱきとした行動についていくのがやっとなで必死でした。日頃から丁寧に指導されていることがあらためて実感できました。北星の強さの秘訣が垣間見られた3日間でもありました。きっと夏までに強くたくましく成長するだろうと期待しています。

今年のトレーニングマッチ。参加数は12チームでどのチームも1日3ゲームこなせるように日程が組まれていました。試合結果はHPに掲載されているのでご覧ください。

そして、毎年注目の指導者クリニックですが、最終日の午後に設定されていました。いつものような形式とは違いインターハイとウィンターカップを制した桜花学園の井上先生。安城高校の金子先生によるクリニックとなりリニューアルした内容となっていました。

残念ながら金子先生のクリニックは帰りの飛行機の関係上早めに会場を後にしなければならず後ろ髪をひかれながら会場を出ました。

まずは1日目。藤浪と若水の新チームはどのようなバスケットをするのか注目でした。第1ゲームから両チームのゲームを見ることができました。藤浪はキャラクターもそろっておりバランスのよい選手構成で鷺野先生の考える理想のチームに近づいていると感じる仕上がり具合でした。確実に「考えて走る」鷺野イズムは浸透している印象は受けましたし、今年のチームはどんな接触でも正確にボールコントロールする「バランスのよさ」には驚きました。

サイズの大きな選手でもしっかりとしたボールコントロール技術が身に付いており、すべてのプレーにおける土台ができあがっていると感じました。戦術など細かな部分での連携をこれから注入していくのだらうと思いますが、激しいディフェンスから目にもとまらぬ鮮やかなオフェンスへの展開にますます磨きがかかることでしょう。

若水はというと、サイズが小さくよく動くチームでした。昨年も特別大きな選手がいませんでしたが「びっくりするくらい小さいよ」と杉浦先生が笑いながら話してくれましたが本当に小さくて驚きました。

ゲーム以外では大変中学生らしく、清々しい笑顔でなんともかわいくあいさつしてくれる選手たちですが、ゲームになると全員が取り憑かれたかのように豹変します。ボールに対する反応、追い込み、連携、ボールを奪ってからのトランジション、すべてに関して他のチームの3倍速く、とにかくしつこい。まさに「鬼のディフェンス」でした。去年から取り組んでいる何ともネーミングに困ってしまう変則的なマッチアップマンツーマン def が完成に近づいている印象を受けました。「小さいチームはこう戦え！」と言わんばかりに無駄がなく、常に全力でプレーする選手たちに感激しました。

他に注目したのは、激戦区東京を制した八王子一中です。突破力があり得点能力に優れたガードを中心にこれまた激しいディフェンスからのトランジションバスケットで6戦全勝でした。特別なことはなく、強く速く正確にプレーできる選手が多く言うなれば「平均点の高いチーム」と言えます。総合力で押し切るといった印象でした。

今回藤浪中が唯一負けたのが八王子一中でした。若水と八王子の対戦がなかったのが残念ですが、一番の好ゲームだったように思えます。他には全中常連の南陽中から転勤した大野先生率いる長良中も大変質の高い選手がそろっており、今年の愛知も簡単には勝ち抜けない様子です。

北星女子中は初戦に若水と対戦し、激しいディフェンスに対応できず苦しみましたが、徐々にアジャストし後半に怒濤の追い上げを見せました。エースの選手が北海道オールスター合宿参加のため、初日で帰道したため2日目は残ったメンバーで力を合わせ2勝1敗で乗り切りました。収穫の多い遠征となったようです。

最終日午後に行われた指導者クリニックは、桜花学園高校の井上先生がウィンターカップのときに東京成徳高校対策の一環としてやらせていた5メンからのバリエーションの紹介をしてくれました。桜花の選手をモデルに丁寧に説明してくれました。ただ、会場で見えていた中学生には少し難しい内容だったかもしれません。

井上先生が話していた中から少しだけ、、、5メンをいきなりやっても効果はなく、その前に2対2のピック&ロールやスクリーンの正しいセットの仕方、ミートアウトの場所やポストとの距離など基本となる部分的な練習をしっかりと身に付けてからやらなければいけないと強くおっしゃっていました。そして、一番大切なのは自分のチームや選手を熟知しているからこそその戦術であり、その選手の特徴を生かせるパターンをいかに見つけ出し、ゲームの場面で多く出すことができるか。ということを指導者は考えるべきとおっしゃっていました。

まだまだここに書ききれないほど指導者間の交流、恒例のご隠居様のお話、骨盤の角度の話などトレーニングマッチでのエピソードはあります。

鷲野先生があいさつで話していましたが、「すごい指導者が集まる場ではなく、カテゴリーの垣根を越えてバスケットが好きで好きでいられない人たちの集まりにしたい」と強く語っていたこと。そして、実際に集まっている人たちの熱意は間違いなく「自分のチームや選手のため」だけではなく、「どうしたらもっといいバスケットができるのか」を追求・

探求しているのだと感じました。

北海道の指導者が熱いと言わしめた北海道カップ。来てくれることに甘んじるのではなく、積極的に道外に足を運び自分の目や耳で確かめることが何よりも本物であり、心に響きます。現場でしかわからない言葉の重みや選手の息づかいなど刺激は山ほどあります。

これからもなんとか時間とお金を捻出して出かけていきたいと思います。

最後になりますが、期間中の移動では若水中の保護者の方々に大変お世話になりました。会場では藤浪中の選手がてきぱきと働き、保護者の方々は飲み物や昼食の準備後片付けに尽力しておられました。いろいろな人たちに支えられて成り立っていることが参加者にも伝わり関わった人全員がバスケットボールを通じて「幸せ」になれた3日間でした。

本当におつかれさまでした。そして、ありがとうございました。

藤浪トレーニングマッチの結果が分かるホームページは下のURLです。

<http://homepage3.nifty.com/tobishima/bskt/>

H B A（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会